



環境と健康を考えて、地球と共に豊かに暮らすことがロハス。高性能住宅とオール電化で実現した省エネと健康の住まい空間。長く暮らすモノだから、イニシャルコスト+ランニングコストを考えた住まい。それが、建築工房クームの住まいづくり=ロコハウスです。

高性能住宅+オール電化

住まいのロハスは、環境を変える一歩。

無理のない範囲で、環境や健康を考えるロハスだから、建築工房クームの住まいづくりでお客様に喜んでもらいながら、できることを考えたら、ロコハウスというカタチになった。

なぜ、高性能住宅+オール電化でロハスなの？

高性能住宅とは、高断熱高气密で健康に配慮した住まいです。まず、高断熱高气密だから、少ない熱エネルギーで十分な暖かさが、手に入ります。ということは、それだけ資源を使わずに済むということです。では、オール電化を使わなくてもと思うでしょう。しかし、ロハスは、継続して環境と健康を考えて暮らすスタイルです。無理が無い範囲で行なうエコなので、家計のことを考えた場合、オール電化は、深夜電力で日中の暖房と給湯をまかなうため、とても経済的なのです。建築工房クームでは、まろやかな暖かさでメンテナンスが、殆どかからない低温水パネル暖房システム ロコ(LOCO)をお薦めしています。この暖房システムは、給湯も兼ねているのでとても経済的です。

ロコハウスは、健康にも配慮した住まい

住まいは、暮らしの中心です。住まいで過ごす時間で最も長いのは、睡眠時間です。睡眠時のカラダは無防備です。だから、住まいでの健康への配慮は、必要なのです。ホルムアルデヒドなどによるシックハウス症候群や乾燥・湿気による健康への害を軽減する空間でなくてはなりません。義務づけされた換気システムですが、湿度によって吸排量を自動で調整する24時間換気システムを使用しています。珪藻土の塗り壁や呼吸する壁紙の使用で、さらに湿度調整機能があり、ホルムアルデヒドを吸分解する素材を使用しています。見えない部分の石膏ボードであっても、ホルムアルデヒドを吸分解してくれるタイガーハイクリーンボードを使用するなど工夫をしています。

特集
待ったなし
地球温暖化

地球温暖化対策は、国・企業・個人と意識改革が進んでいます。技術も高まり排出を軽減してきましたが、世界全体では、増加しています。南極の氷も予想より早いペースで溶けているのが現状です。今年の温暖な冬、異常な暑さの夏、大型台風など、四季豊かな日本も地球温暖化の影響を受けています。個人として、どう考えどう取り組むべきなのでしょうか？

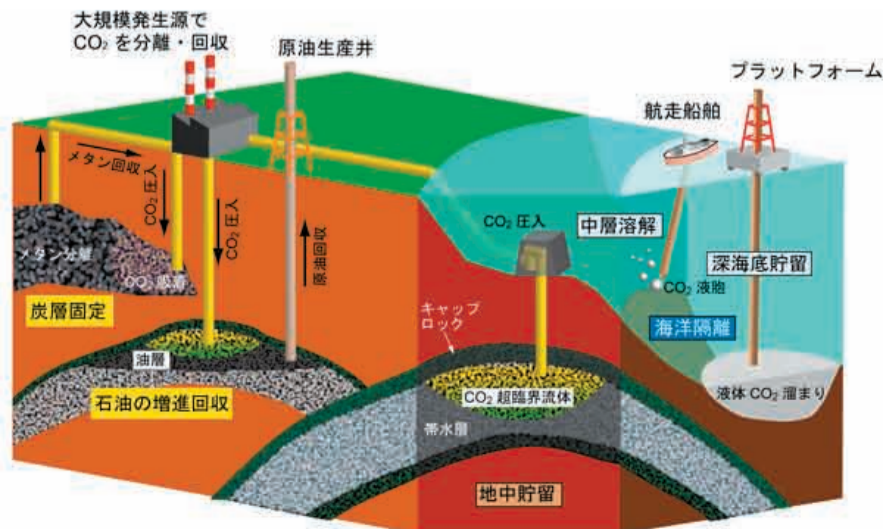
1
CCS技術でCO₂を貯留
Carbon Dioxide Capture and Storage

世界中で、地球温暖化の対策が取られています。予測より急速に地球温暖化が進む中、いろいろな対策を日本も行なってきました。しかし、京都議定書で日本が目標としている2008~2012年までの期間中に、数値(基準年1990比6%削減)のクリアが厳しい状況です。(現在、基準年比約8%増)そこで、昨今一時的処置として注目されている技術があります。それが、CCS技術です。

地中と海中に貯留

大気にCO₂を出さない技術で時間を稼ぐ。

CCS技術は、下記の図のように、火力発電などによる高度な排ガスからCO₂を取り出し、地中や海中にCO₂を貯留する技術です。世界全体では、貯留可能な量を推定すると、75年分あるとされています。日本の貯留量は、日本の排出量で100年分あると推定されています。しかし、この貯留は永遠という訳では無く、ある年数貯留すると、大気に少しずつ漏れ出すと言われています。抜本的な解決法が見いだせない今は、このCCS技術により地球温暖化を遅らせ、その間に抜本的解決を図るしかないのが、現状です。やはり、一人ひとりの小さなエコが、大切なのです。



2
100年燃え続ける町
米国セントラリア坑内火災

1962年5月、集積所のゴミを焼却したところ、地下の鉱脈に火が燃え移り坑内火災が発生。現在も火は消えず、地表では地面が70~80℃となり、地下水は水蒸気となって地表に噴出。地下水が失われ地盤沈下も引き起こされている。この坑内火災の消火には、莫大な費用が必要なこと、そして、技術面での課題が多いことから米国政府は、消火活動を放棄した。2002年には、郵便番号(17927番)が抹消された。この火災は、雨が降っても消えることは無く、火災発生から鎮火まで、100年とも200年とも言われている。実際、いつ鎮火するのかは一切分からず、燃え尽きるのをただ待つしか無い状況にある。



これ程大規模な坑内火災は、過去に中国でもあった。100年余り続いた新疆ウイグル自治区の硫黄溝炭田の火災は、2000年初めから正式に消火活動を行なって、4年での鎮火を目指している。2002年現在で、42カ所の火災で24カ所が残っている。永きに燃え続けたこの地表面温度は、200~300℃あり、石炭ガスや硫黄などの有毒ガスが充満していたという。このような大規模な火災は、人為的な火災の他に、乾燥した森林の火災などがあるが、これもまた、地球温暖化を加速させるものです。住宅屋として、高性能な住まいづくりが省エネとなり、地球環境への貢献となると考えて、私たち建築工房クームは、住まいづくりをしています。